卒業論文・卒業研究のルーブリックによる客観的評価

琉球大学農学部　鹿内健志　（学長補佐－教育担当－）

令和4年2月14日　令和3年度大学等の質の保証人材セミナー「学習成果の公正な測定：その現状とポストコロナにおける課題」

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

内容

- 琉球大学の概要
- 学士教育課程のＵＲＧＣＣとは
- 全学学士教育プログラム委員会の機能・特徴
- 学習教育目標の達成を保障するための取組
  - 卒業論文のルーブリックによる客観的評価
- おわりに

琉球大学の概要
L and-Grant University～地域に貢献する大学

第二次世界大戦後、アメリカ統治下の沖縄で、向学の志に燃える高校生、沖縄の復興を教育に託した保護者、さらにはハワイの沖縄県人会などの熱望により、ミシガン州立大学をモデルとして、「地域に貢献する大学 L and-Grant University」の精神の下、1950年5月に設立。

もともとFDに熱心なアメリカ型風土

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

7学部9研究科の総合大学

人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部
（2021年5月1日現在、在籍者数7,096名）

人文社会科学研究科、観光科学研究科、教育学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学研究科、法務研究科、鹿児島大学大学院連合農学研究科
（2022年度から地域共創研究科）　（2021年5月1日現在、在籍者数880名　※連合大学を除く）

千原キャンパス

上原キャンパス

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

21世紀型民を育てるURGCC

URGCCとは、21世紀型市民を養成するために琉球大学が2012（平成24）年度から導入した学士としての質を保証するための取組の総称。全学共通の７つの目標を定めている。

University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum（**URGCC**）

キャッチフレーズ！

７つのURGCC学習教育目標

自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

学士課程教育のURGCCの理念を引き継ぐ大学院教育

URGCC-Advanced

- 大学院課程教育においても、博士課程前期（修士課程）、博士課程後期（博士課程）及び専門職学位課程の各専攻を修了した学生が普遍的に獲得することが期待されている知識・技能・態度を概念的に表し（URGCC-Advanced学習教育目標）、琉球大学の学部入学から大学院修了までの一貫した教育を進めるため、2018年度にURGCC-Advancedを導入し、全学的な組織での教育改善活動を推進し、教育の質保証システムを確立しました。

ＵＲＧＣＣ関連委員会・会議

平成21年度
（2009年度）

・　琉球大学グローバルシティズン・カリキュラム（ＵＲＧＣＣ）
検討委員会　発足

平成22年度
（2010年度）

・　URGCC推進支援室（現在：開発室）　設置

平成23年度
（2011年度）

・　学士教育プログラム代表者連絡・調整会議　発足

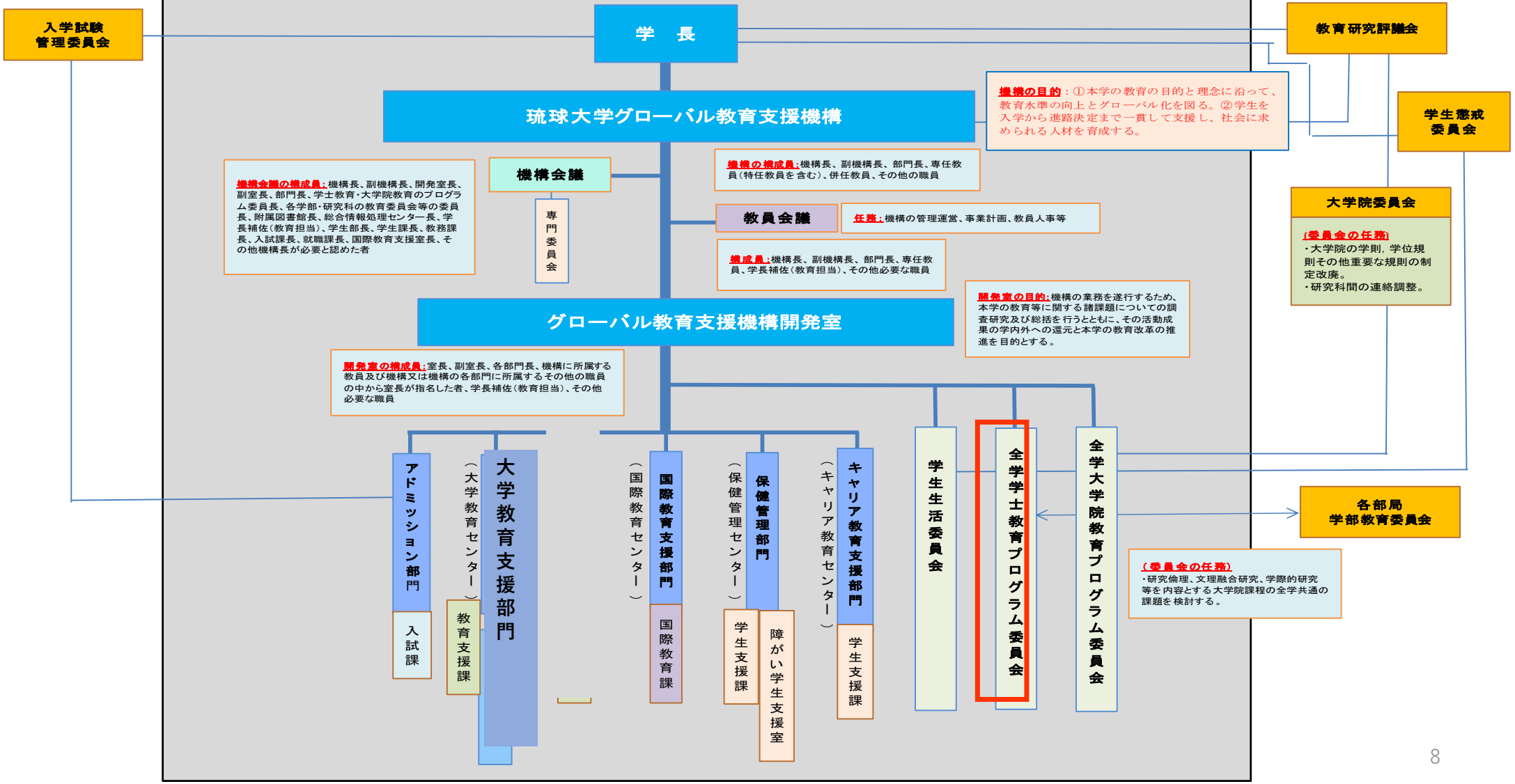
平成24年度
（2012年度）

・　全学学士教育プログラム委員会

URGCCの導入開始

琉球大学グローバル教育支援機構の組織図

2017.4.1現在



全学学士教育プログラム委員会の機能・特徴

- 学部の壁を取り払い「学士教育プログラム」を単位として構成
- 学士教育プログラムは入試・カリキュラム構成の最小単位で設置
- 入口から出口までの責任体制が確立
- 全学的な観点から議論が可能
- 他学部がどのような改革を行っているかが可視化
- 議題は３つのポリシー、カリキュラムマップ、アクティブラーニング等全学共通のテーマ
- 委員会それ自体が月１回のFD研修会
- 委員がファシリテーターとなり各学部へも理念が浸透

学士教育プログラム（7学部32プログラム）

学部（プログラム数）	学士教育プログラム
人文社会学部（8）	法学、政治・国際関係学、哲学・教育学、心理学、社会学、歴史・民俗学、言語学、文学
国際地域創造学部（5）	観光地域デザイン、経営学、経済学、国際言語文化、地域文化科学
教育学部（1）	学校教育
理学部（5）	数理科学、物理系、地学系、化学系、生物系
医学部（2）	医学、保健学
工学部（7）	機械工学、エネルギー環境工学、電気システム工学、電子情報通信、社会基盤デザイン、建築学、知能情報
農学部（4）	亜熱帯地域農学、亜熱帯農林環境科学、地域農業工学、亜熱帯生物資源科学

学習教育目標の達成を保障するための取組（1）

- 2013（平成25)年度
  - 当初、DP－CPをベースにしたカリキュラムマップから全ての授業科目を対象とし検討を進めた
  - カリキュラムマップでDPに紐付けられる、授業科目を一つにまとめて、達成すべき水準等を検討した
  - 各授業科目のシラバス（評価方法・評価基準）との整合性など、議論が複雑化

➡ 再検討

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

学習教育目標の達成を保障するための取組（2）

- 2014（平成26)年度
  - 学習成果の評価に関する基準
    - ①客観性：あらかじめ明示された基準と証拠により成果を把握すること
    - ②総合性：卒業時における学習成果を把握すること
    - ③具体性：具体的に何ができるようになったかを把握すること
  - 具体的な取組として「4年間（6年間）の集大成になるような科目」について各学士教育プログラムで検討
    - ルーブリックの活用
    - 全学統一的な方法で実施

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

評価基準表作成の手引き

平成 27 年 2 月 4 日
全学学士教育プログラム委員会承認

1．趣旨

各学士教育プログラムを通じた学生の学習成果を把握する方法として，試行的に評価基準表（ルーブリック）を活用することとし，その作成方法を以下に定める。

2．作成対象科目について

H26 年度取組において，評価基準表を作成する科目は，集大成的科目（卒業論文等）を原則として，更に下記のいずれか（もしくは全て）を満たす科目から，1 科目以上を選択する。

①必修科目
②複数教員間により評価が行われる科目
③4 年次提供科目

3．「URGCC 学習教育目標」，「対応するプログラムの学習教育目標」，および「当該授業科目の達成目標」欄について

（1）URGCC 学習教育目標と，それぞれに対応するプログラムの学習教育目標，および当該授業科目の達成目標を記載する。
（2）「URGCC 学習教育目標」と「対応するプログラムの学習教育目標」欄の配置順序は入れ替えても構わない。
（3）「対応するプログラムの学習教育目標」は欄外に番号を付して箇条書きし，欄内にはその番号を記入するという記載方法を用いても構わない。

4．「重みづけ」について

（1）各学習教育目標に対し，%表記による重みづけを行う。
（2）重みづけの合計は，100%となるように調整する。
（3）その科目に含まれない学習教育目標がある場合，それについての重みづけは 0%とする。
※今回作成する科目については，集大成的科目であるため，できるだけ重みづけ 0%となるものが無いようにする。なお，重みづけ自体が困難な場合は，当該箇所について空欄でも良い。

5．各評価基準欄（F~A）について

（1）各評価基準については，欄内に文言により具体的な評価基準を記載する方法，もしくは大まかな評価基準を記載する方法等が考えられるが，科目，プログラムの判断により適切な記載方法を行う。
（2）各評価基準は必ずしも入力フォームのように 5 段階評価としなくても良い。

6．代替案について

評価基準表の作成が困難なプログラムは，それに代わる評価基準や評価方法について，具体的に示したものを作成する事とする。

評価基準表作成の手引き（1）

- 1．趣旨
  - 各学士教育プログラムを通じた学生の学習成果を把握する方法として、試行的に評価基準表（ルーブリック）を活用することとし、その作成方法を以下に定める。
- 2．作成対象科目について
  - H26 年度取組において、評価基準表を作成する科目は、集大成的科目（卒業論文等）を原則として、更に下記のいずれか（もしくは全て）を満たす科目から、1 科目以上を選択する。
    - ①必修科目
    - ②複数教員間により評価が行われる科目
    - ③4 年次提供科目
- 3．「URGCC 学習教育目標」、「対応するプログラムの学習教育目標」、および「当該授業科目の達成目標」欄について
  - (1) URGCC 学習教育目標と、それぞれに対応するプログラムの学習教育目標、および当該授業科目の達成目標を記載する。
  - (2) 「URGCC 学習教育目標」と「対応するプログラムの学習教育目標」欄の配置順序は入れ替えても構わない。
  - (3)「対応するプログラムの学習教育目標」は欄外に番号を付して箇条書きし、欄内にはその番号を記入するという記載方法を用いても構わない。

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

評価基準表作成の手引き（2）

- ４．「重みづけ」について
  - (1) 各学習教育目標に対し、％表記による重みづけを行う。
  - (2) 重みづけの合計は、100％となるように調整する。
  - (3) その科目に含まれない学習教育目標がある場合、それについての重みづけは0％とする。
    - ※今回作成する科目については、集大成的科目であるため、できるだけ重みづけ0％となるものが無いようにする。なお、重みづけ自体が困難な場合は、当該箇所について空欄でも良い。
- ５．各評価基準欄（F-A）について
  - (1) 各評価基準については、欄内に文言により具体的な評価基準を記載する方法、もしくは大まかな評価基準を記載する方法等が考えられるが、科目、プログラムの判断により適切な記載方法を行う。
  - (2) 各評価基準は必ずしも入力フオームのように5 段階評価としなくても良い。
- ６．代替案について
  - 評価基準表の作成が困難なプログラムは、それに代わる評価基準や評価方法について、具体的に示したものを作成する事とする。

評価基準表　　科目：　　プログラム名：

URGCC学習教育目標	対応するプログラムの学習教育目標	当該授業科目の達成目標	重みづけ（%）	F: Failure (0～59点)	D: Pass (60～69点)	C: Fair (70～79点)	B: Good (80～89点)	A: Excellent (90～100点)
自律性								
社会性								
地域・国際性								
コミュニケーション・スキル								
情報リテラシー								
問題解決力								
専門性								

卒業論文以外の科目の事例

学士教育プログラム	対象科目
法学	法学演習 II A/B
経済学	経済学演習 II
学校教育（教員養成課程）	教職実践演習
医学	病院臨床実習

学習教育目標の達成を保障するための取組（3）

- 2015（平成27)年度
  - 「4年間（6年間）の集大成になるような科目」について全ての学士教育プログラムで試行
    - ルーブリックの活用
    - プログラム独自の方法

- 評価基準表に基づく成績評価の実施（試行）について

  - 成績評価等の客観性，厳格性を担保するための組織的な取り組みの第一歩として，平成27年度に，プログラムにおける集大成的科目若しくは中核的科目（卒業研究等の授業科目）を対象とし，評価基準表に基づく成績評価に取り組む

  - 試行で用いる評価基準表
    - 「プログラムの学習目標」
    - 「URGCC学習教育目標」
    - 「授業科目の達成目標」
    - 「重みづけ」
    - 「評価基準」

試行を進めるにあたっての確認事項

- １．試行の目的
  - 成績評価等の客観性，厳格性を担保するための組織的な取り組みを推進するため，各プログラム構成員が評価基準表による成績評価を体験することで，その効果および課題の抽出を行い，次年度以降の取り組みへの指針を得る
- ２．試行内容の確認
  - 評価基準表の内容について，各プログラム構成員が確認し，当該授業科目の成績評価の際には，各プログラム構成員が評価基準表の優劣，適否等について検討し，次学期以降の評価基準表に基づく成績評価などの在り方について各プログラムで議論をまとめる
- ３．評価基準表の内容の確認
  - 評価基準表の「当該授業科目の達成目標」（評価観点）は，当該授業科目のシラバスの達成目標欄に記載された項目と深く関連

評価基準表の「授業科目の達成目標」の確認

- 授業科目のシラバスの達成目標欄に記載された項目
  - 当該授業科目が複数のクラスで実施され，クラスを担当する教員毎にシラバスが作成されている場合は，評価基準表の「授業科目の達成目標」の記載について，次のいずれの方法を採用するかプログラム構成員で検討下さい。

  - １）プログラムで，当該授業科目の統一したシラバスを作成し，評価基準表の「授業科目の達成目標」をプログラムで統一し，プログラム共通の評価基準表を作成する。
  - ２）プログラムで，当該授業科目のシラバスは担当教員毎に作成し，評価基準表も，担当教員毎に作成し，プログラムで複数の評価基準表を作成する。
  - ３）プログラム独自の評価基準表などを作成する。

評価基準表に基づく成績評価の検証（1）

卒業論文

- 成績評価等においても、客観性や厳格性を担保するための統－的な評価基準表の作成・試行に苦慮
- 卒業研究を対象として評価を行ったが、研究テーマが学生ごとに異なっており、客観的に、厳格に評価するということは大変難しい
- 主指導教員のみが評価を行うのではなく、主指導教員評価とそれ以外のコース教員評価の合算評価を行う。評価基準の統一あたって、コース教員で中身を話し合う事により、裁量に委ねられる評価の客観性は向上したと考えられる。
- 評価準表によってある程度の客観性と厳格性は担保されるが、以前から専攻内で実施してきた教員間の協議による判定方式を併せて実施することによってさらに客観性と厳格性が担保されると考える。
- 評価準表によってある程度の客観性と厳格性は担保されるが、以前から専攻内で実施してきた教員間の協議による判定方式を併せて実施することによってさらに客観性と厳格性が担保されると考える。

評価基準表に基づく成績評価の検証（2）

演習・ゼミ

- 全論文の講評を行い、各ゼミにおける卒業研究の評価の基準について、認識を共有することができた。毎年の積み重ねることで、成績評価の客観性、厳格性をより高めることができる。
- 集大成科目に位置付けている「演習」の評価物（個人よる卒論制作／グループ・プロジェクト等）が各教員によって異なることもあり、すべての学生に対して、厳格に同じ基準で客観的に評価することは困難

評価基準表に基づく成績評価の改善

- ルーブリックは小論文やプレゼンテーションなどプロジェクトやパフオーマンスを評価する際の評価軸を明確にすることができ合理的
- 各授業科目において評価の信頼性（尺度が適切か）、客観性、効率性（実用性）および妥当性（評価方法が適切か）を評価実施する教員が十分に検討し、それをシラバスにしっかり記述する取り組みを推進することが重要
- 個々の教員の教育力強化およびそれを支援する組織的対応を整備（FDの実施）
- 大学全体に成績評価を客観的、厳格に行うという意識の醸成が推進

学習教育目標の達成を保障するための取組（4）

2016（平成28)年度～

- 平成27 年度に実施した評価基準表に基づく成績評価を改善し実施（継続）
- 卒業研究等の授業を対象とするが、評価基準表に基づく評価は「論文」、「プレゼンテーション」などある特定のパフオーマンスを評価するために利用
- 評価基準表を作成する組織的FD を含んだ運動を展開
- 琉球大学が育成する学士力の水準を示す汎用的ルーブリックの策定

達成目標

1. ○○を具体的に説明できる。
2. ○○についてのクラスメートの意見に対し、的確な質問やコメントができる。
3. ○○に関する調査ができ、正しい情報を選択し発表できる。

この科目は○○プログラムの学習教育目標の「・・・・・・・・・・・の修得」及び「・・・・・・・・・・・の修得」に関連した授業である。

評価基準と評価方法

評価基準

（達成目標１について）

①与えられた問いについて、既存の学説等を踏まえた上で、自分の意見を述べている。

②プレゼンテーションの内容が論理的で、十分に説得力を持った内容である。

（達成目標２について）

③他者の発表内容を十分に理解し、適切な意見を述べている。

（達成目標３について）

④図書館情報を十分に活用し、調査は十分になされている。

⑤発表は適切でわかりやすい資料が準備され、発声・アイコンタクトなどのスキルが十分で、質疑応答に効果的に対応している。

評価方法

論述試験（50%）（評価基準①）

プレゼンテーションの内容（40%）（評価基準②④⑤）

プレゼンテーションフィードバックシート（10%）（評価基準③）

- http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/divisions/division-2/kaihatusitu/publications/fd_guide

3　ルーブリックの要素

ルーブリックは、課題、評価観点、評価尺度、評価基準の４つの要素でできています。これらはすべて表形式で配置されます。

課題

	評価尺度①	評価尺度②	評価尺度③
評価観点１	評価基準１－①	評価基準１－②	評価基準１－③
評価観点２	評価基準２－①	評価基準２－②	評価基準２－③
評価観点３	評価基準３－①	評価基準３－②	評価基準３－③
評価観点４	評価基準４－①	評価基準４－②	評価基準４－③

図　基本的なルーブリックの表

（１）課題

教員が学生に何が身についているかを調べるために課すレポート、論文、プレゼンテーションなど、評価を行う対象です。通常、評価をおこなう対象ごとにルーブリックは作成されます。何を評価するためのルーブリックなのかがよくわかるように、「レポートのルーブリック」などとルーブリックの一番上に記述します。課題と成績評価を一緒に示すことにより、その内容や評価基準は学生にとって現実的なものとなり、注意深く読んでもらえます。

（２）評価観点

評価観点とは、課題が求める具体的なスキルや知識です。課題における達成が期待される要素をもれなくあげます。学問的に優れた成果物に結び付いていなければならないスキルを具体的に表現します。例えば、しっかりした内容の理解、技法、引用、例示、分析、場面に応じた適切な表現の使い分けなどがこれにあたります。レポートなどを課したときに、測りたいものが全部網羅されているというのが大事です。一般的に７つぐらいまでで、あまり複雑な 10 も 20 もあるようなものは採点も逆にしづらくなります。

評価観点においては、行動の質についての記載を含みません。例えば、「全体構成」というのはよく評価観点に使われますが、「優れた全体構成」と書くべきではなく、評価観点における学生の行動の質については、評価基準の部分に記述されます。したがって、ここではシンプルな形容詞の入っていないもの を１個ずつの評価基準の中に入れてください。

（３）評価尺度

評価尺度は、与えられた課題がどれだけ達成されたかを表すものであり、ルーブリックの表の最上段に明記されます。一般的なルーブリックで使われるのは「優秀、良、要再学習」や「模範的、優秀、合格圏、不合格」や「卓越、有能、中間、初歩」など１から５段階までで記述します。「上級、中級、初級」という非評価的で非競争的な用語を用いることも可能です。初めてルーブリックを作る場合には、３段階のレベル に限定すると良いと思われます。

使用される標語は明確かつ教育的配慮が必要です。教育的配慮というのは、できてない尺度について、学生のやる気を失わせてしまうような文言ではなく、「もっと努力しようね」というようなメッセージが伝わる文言 を選んでください。

（４）評価基準

評価観点ごとの 到達度を具体的に記述します。文章で表現されるのが特徴 です。１とか２とかという数字ではなくて中身について評価基準が設けてあります。評価尺度のレベルが一段下がった箇所では理想的なレベルと比較してどこが違うかを明確に記述します。サンプルを見ていただければ、各レベルで記述がはっきり分かれているこ

- 研究論文
- プレゼンテーション
- 実験レポート
- レポート

などのサンプルルーブリックを提示

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

ＵＲＧＣＣメタ・ルーブリック

備考：琉球大学 グローバル教育支援機構 開発室　2017　『琉球大学URGCC FDガイド　第２巻　ルーブリック編』　参照

レベル レベルのめやす		レベル４ 特に優れている	レベル３ 優れている	レベル２ 良好である	レベル１ 基準に達している
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	・大学で学ぶ意義を深く理解し、自分自身が掲げる明確な目標の達成に向けて主体的かつ自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持を実践できる。	・大学で学ぶ意義を十分に理解し、自分自身が掲げる目標の達成に向けて主体的かつ自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持に努めることができる。	・大学で学ぶ意義を理解し、自分自身が掲げる目標の達成に向けて自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持に努めることができる。	・大学で学ぶ意義をある程度理解し、目標の達成に向けて自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通した学びを理解し、心身の健康の維持に配慮することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	・市民としての自覚を持って社会の規範やルールを理解した上で尊重し、倫理性を十分に身に付けることができる。 ・多様な人々との違いを理解し、進んで協調・協働し、高いリーダーシップを発揮し目標実現のために行動することができる。	・市民として社会の規範やルールを十分に理解し、倫理性を身に付けることができる。 ・多様な人々と進んで協調・協働し、リーダーシップを発揮し目標実現のために行動することができる。	・市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付けることができる。 ・リーダーシップを理解し、多様な人々と協調・協働し、目標実現のために行動することができる。	・基本的な社会の規範やルール、倫理性を理解することができる。 ・他者と協調・協働し、目標実現のために立場に応じた行動ができる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて深く考察することができ、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に主体的に貢献でき、地域・国際社会の発展に秀でた働きかけができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて考察することができ、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に進んで貢献することができる。また、地域・国際社会の発展に積極的に優れた働きかけができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて理解でき、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。また、地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる。	・地域と世界の関わりに目を向け、異文化を認識し、世界の平和及び人類と自然の共生について考えることができる。 ・地域・国際社会の発展に関わる姿勢を示すことができる。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	・言語とシンボルを高度に使いこなしてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し尊重しながら、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに的確で完成度の高いレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルを使いこなしてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに適切で優れたレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルを用いてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに適切な文書でレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルの基本的な活用ができ、自分の考えや意思を表現することができる。 ・語彙、論理ともに基本的なレベルでレポート・論文を作成することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	・精度の高い情報や知識を多様なチャンネルから正確に、効率よく収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を的確に取捨選択し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルから効率よく収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を判断し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルから収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を判断し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルからある程度収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・情報源の信頼性と、モラルに配慮し活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、的確かつ主体的に問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、的確かつ主体的に問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を発展的に活用できる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、主体的に問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、主体的に問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を活用できる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を活用できる。	・批判的・論理的な視点を持って問題を見いだすことができる。 ・持てる知識や経験を踏まえて分析し、問題解決でき、他の分野の知見も参考に捉えることができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	・専攻する学問分野における高度な思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、応用的に活用することができる。	・専攻する学問分野における優れた思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、十分に活用することができる。	・専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	・専攻する学問分野における基本的な思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、用いることができる。

レベル４＝A、レベル３＝B、レベル２＝C、
レベル１＝Dの成績評価に対応

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

おわりに

- 卒業論文・卒業研究については、大学設置基準　第21条第3項および第27条の「大学の定める適切な方法」
  - 全学学士教育プログラム委員会の審議内容
  - シラバス
  - 卒業論文・卒業研究のルーブリック
  - メタルーブリック

  を拠り所とし各学士教育プログラムで定める

その後の取組

- シラバスのピアレビュー
- 授業科目の自己授業点検およびプログラムでのレビュー
- 大学院プログラムへの展開